

【資料2】

トレーニング指導案

中学部 ピア・サポートプログラム

★本時の活動とねらいについて

「積極的な聴き方」

話し手の視点も体験させながら、しっかり相手の話を聴くというスキルを習得させる。

	生徒の活動	教師のはたらきかけ・留意点
導入	☆相手の話をしっかり聴くトレーニングに取り組むことを確認する。	★トレーニングの目的についての示唆
ウォーミングアップ	「私はこんな人に相談する」 ☆困ったときに相談する人はどのような人かを思い出す。 ☆目を閉じてしっかりと想像させる ☆相談したい人について交流 →口が堅い人、 →アドバイスをくれる人 →仲がよい人 など	★イメージできない生徒には、具体的に場面を想像させてもよい。
主活動	「話の聴き方ロールプレイ」 ☆3人1組になる →それぞれ聞き役、話し手役 観察者の役割分担をする 観察者は、話し手役の話を聴いている聞き手役の様子を観察して、どのような態度で聴くように指示が出ているかを当てる ①えらそうな聴き方 ②聴く気を感じられない聴き方 ③積極的な聴き方 →身を乗り出す、目を見るなど ☆それぞれの感想について交流する	★ロールプレイについての説明 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">F Facing 顔を見て E eye-contact 目を合わせて L Lean 身を乗り出して O Open 心を開いて R Relax リラックスして</div> ★それぞれの態度について、聞き手だけにわかるように指示を出す。 ★説明につながるように話を取り上げる
まとめ	FELORについて学ぶ ☆普段の生活（学校・家庭）で活用するイメージをさせる ☆ワークシートに感想を書き込む	★FELORの説明 ★まとめ、次時の予告

「すぐ始められるピア・サポート 指導案&シート集」

森川澄男／監修 菱田準子／著

【ほんの森出版】 P42～参照

※P117 FELORについてのてきすとを使用

月 日

年 名前 (_____)

★ウォーミングアップ「私はこんな人に相談する」で気づいたこと・感じたこと

★積極的な聞き方とそうでない聞き方の違いについて理解できましたか？

★今回の活動で気づいたことやわかったこと

「積極的な聞き方」(FELOR) が使えそうな場面	どうだったか

「FELOR」とは？

F	
E	
L	
O	
R	

2020年度 大連日本人学校中学部 ピア・サポートプログラム

★本時の活動とねらいについて

「エゴグラム」(2時間扱い)

エゴグラムに取り組み、自分自身に目を向けさせ、自身の特徴やよさに気づかせる

	生徒の活動	教師のはたらきかけ・留意点
導入	<p>☆前時の学習(傾聴)を振り返る。 ☆</p>	<p>★自分自身を把握するトレーニングであることを確認する ※ある程度、広い場所を確保</p>
ウォーミングアップ	<p>「YES or NO」 ☆質問を聞き、「YES」「NO」の自分らしいと思うエリアに移動する →①友人と自分の同じ面・違った面を発見 ②友人から見た自分のイメージを知る</p>	<p>★ルールや注意事項の説明 ※質問事項参照 ★生徒の様子を見て、関心を示す ※フィードバックさせるようなまとめ人に合わせてしまうのも個性</p>
主活動	<p>「エゴグラムに取り組もう」 ☆50問の質問に答える →ワークシート(得点・グラフ)への記入 ※1時間目はそこで終了</p> <p>【2時間目】 5つの自我があることで、同じことでも、相手によって言い方などが違ってしまふことを理解</p> <p>☆自分のエゴグラムの形とテキストを見比べる ☆少人数のグループで交流</p>	<p>★説明→質問開始(PPにて提示) ★得点とグラフの記入方法など、について説明 ★配慮すべき生徒などへの支援を行う</p> <p>★エゴグラムの基本となっている5つの自我について説明(テキストを配布) ※資料参照 ★自分自身の性格を振替させる ★自分と他者との比較をさせる また、他者から見た自分のイメージについて考えさせる</p>
まとめ	<p>☆ワークシートに感想などを書き込む</p>	<p>★まとめ、次時の予告</p>

「エゴグラム」

年 氏名 ()

★ウォーミングアップ (YES or NO) で感じたこと

★エゴグラムの結果について感じたこと

★今回のエゴグラムで気づいたことやわかったこと

★今回のエゴグラムでわかったことを、どのような場面で生かせるか考えてみよう。

どんな場面で？	どのように？
(例) 家庭で	(例) 自分にはがんこなところがあることがわかったので、人の意見にしっかりと耳を傾けてみようと思う。

「YES or NO」の質問事項

(YESなら廊下側に、NOなら窓側に移動してください)

- ① 頼まれたら、嫌とは言えない。
- ② 目標を決めたら、多少しんどくてもやり遂げるほうだ。
- ③ 困っている人がいると、とても気になってしまう
- ④ 人の目が気になることがある。
- ⑤ 規則はきちんと守るものだと思う
- ⑥ 失敗をしたり、答えが間違っていたりすると、その原因を分析するほうだ。
- ⑦ 1人であるよりも、大勢であるほうがいい
- ⑧ 初対面の人と話すのが苦ではないほうだ。
- ⑨ 頑固なときがあると思う。
- ⑩ 流行や人の意見に流されやすいほうだ。

※あくまで例です。

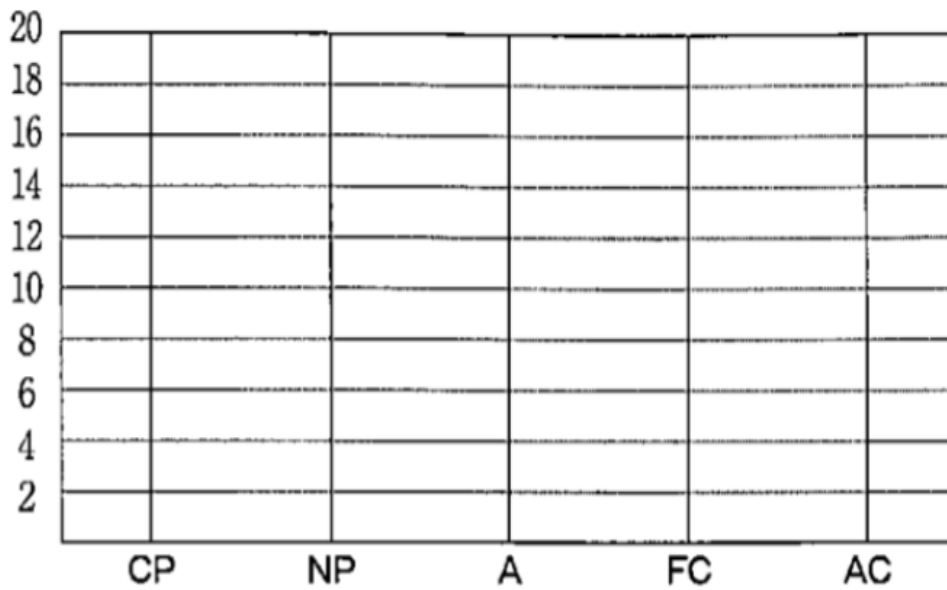
あてはまる → 2
 どちらの場合もある → 1
 あてはまらない → 0

氏名 _____

合計

1	6	11	16	21	26	31	36	41	46		CP
2	7	12	17	22	27	32	37	42	47		NP
3	8	13	18	23	28	33	38	43	48		A
4	9	14	19	24	29	34	39	44	49		FC
5	10	15	20	25	30	35	40	45	50		AC

グラフに記入をしよう!



	CP	NP	A	FC	AC	合計
現在						
理想						

★本時の活動とねらいについて

「プラスのストローク」 プラスのストロークが仲間を勇気づけ、仲間同士の雰囲気温かくなることを実感させることをねらいとしている。

	生徒の活動	教師のはたらきかけ・留意点
導入	☆前時の学習を振り返り、よりよい人間関係を築くためのトレーニングに取り組むことを確認する	★仲間を勇気づけたり、元気づけたりするトレーニングに取り組むことを示唆する
ウォーミングアップ	「心のキャッチボール」 ※学級全員で2つのグループを作る ☆ぬいぐるみなどを投げ交わす そのときに、「〇〇が好きな△△」や、「□□がすてきな△△」などと、他己紹介を行いながら投げる →温かい声と共に物を渡されるとき のうれしさ、待っている時の不安を実感 ※机を一度元の位置に戻す	★ルールや注意事項の説明 ※投げ合う物は、手に入るぐらいの大きさの物で、大切に扱える物がよい(ぬいぐるみなど?) ★受け取る生徒に偏りができることで悪影響が出ないように配慮をする ★生徒が感じていた不安と、もらったときのうれしさについて、意識付けを行う
主活動	「プラスのストローク」 ☆プラスとマイナスのストロークについて整理する →テキストを参照 ☆自分がうれしく感じたストローク(プラスのストローク)、傷ついたストローク(マイナスのストローク)について交流 ☆ワークシートにプラスのストロークを書けるだけ書く ☆発表交流を行い、自分にはなかったアイデアを付け加える ☆二重円をつくり、内円と外円でペアを作らせる	★ストロークについてのテキストを配布する ★ストロークとディスカウントについて説明 ★板書して整理 ※無視は、マイナスのストローク以上に相手を傷つけることについて確認する ★ワークシート2配布 ★発表交流させる ★「相手をほめてみよう」 ※例示→やってみせる
主活動	→1人持ち時間45秒で、相手をほめる(必ずあいさつをしてから) 終了後、今度はほめる側が交代 →内側の生徒は時計回りに移動し、ペアの交代をする	★時間を計測し、生徒に知らせる ★全体を見て、数名の生徒を抽出し、全体の場で交流させる
まとめ	☆(机を元に戻す) ☆ワークシートに感想を書き込む	★プラスのストロークによって笑顔が増えてきたことを確認する ★まとめ、次時の予告

「プラスのストローク」

年 組 ()

うれしかった言葉

★上手くいったほめ言葉や、うれしかった相手の反応

★今回の活動で気づいたことやわかったこと

★今回のトレーニング（プラスのストローク）でわかったことを、どのような場面で生かせるか考えてみよう。

どんな場面で？	どのように？
(例) クラスで	クラスメートがみんなのためになる行動をしたとき、プラスのストロークの声かけをして、良い雰囲気にする。

テキスト3 プラスのストロークを贈ろう

○プラスのストロークが、仲間を勇気づけたり、元気づけたりできることを体験する。
○プラスのストロークを待っている仲間の存在に気づく。

★ストロークとは

“なでる” “さする” といった意味も含めて、「他の人の価値や存在を認めるための働きかけ」のことをストロークと言います。つまり、赤ちゃんのときには、なでたりさすったりされる直接的な肌の接触が必要で、少し大きくなってからは、認められる、肯定されるといった反応が私たちには必要なのです。それが欠けると深刻な問題が生じることが研究報告や症例で示されています。

1. プラス（肯定的）のストローク

プラスのストロークには、“ほめる” “なぐさめる” “はげます” “そうだね” などの言葉や、“ニコッとする” “うなづく” などの態度があげられます。このプラスのストロークをもらうと、人は幸せな気持ちになり、自分の存在に意味を見いだすことができます。

2. マイナス（否定的）のストローク

マイナスのストロークには、“ばかにする” “皮肉を言う” “怒る” “けなす” などの言葉や、“いじめる” “たたく” “嫌な顔をする” などの態度があげられます。このマイナスのストロークをもらうと、不愉快な、みじめな気分になり、自信をなくすこととなります。

3. デイスカウント

デイスカウントとは、“存在を認めない” こと、“価値を認めない” こと、“関心を示さない” ことを言います。『デイスカウント』という言葉は、デイスカウントセール（大安売り）などに用いられるように、実際の値段より、うんと値引きすることです。『いじめ』の中には“無視” というものがあります。この“無視” はデイスカウントにあたります。デイスカウントされた人は、自分の存在そのものを否定され、大きな心の傷を負うこととなります。

□ デイスカウントの3つの領域

- ① 自分のことをデイスカウントする。
- ② 相手のことをデイスカウントする。
- ③ まわりのこと（学級、仲間、親など）をデイスカウントする。

みんな待ってるよ プラスのストローク

ピア・サポートプログラム

★本時の活動とねらいについて

「怒りの温度計」

自分の怒りが発生する場面とその度合いについて振り返ることで、自分の感情の傾向をつかませる。また、交流により、自分と他者との違いを意識させる。

	生徒の活動	教師のはたらきかけ・留意点
導入	☆自分が怒りを覚える場面を振り返り、自分の感情の傾向をつかませる授業であることを意識させる。	★怒りを覚えることが、自然なことであることを伝え、生徒が気軽に取り組めるように配慮する。
ウォーミングアップ	「感情を読み取ろう」 ☆2～3人1組でグループをつくる ☆グループの1人の生徒が、指示された感情について、態度や表情で表現し、他のメンバーはその感情が何かを当てる。	★グループをつくる指示。 ★カードや板書などで、表現する感情を指示する。「怒り」「喜び」「悲しみ」「軽蔑（あきれる）」「楽しさ」など
主活動	「怒りの温度計」 ☆ワークシートに取り組み、自分がどのような場面で怒りを覚えるか、またそれぞれの怒りの度合いについて書く。 また、そのときの対処方法についても考えさせ、記入させる。 ☆グループなどで意見交流を行う。	★なかなか書き入れられない生徒は、最近怒りを覚えた場面を言葉で聞くなど、支援を行う ★他者との違いについて、意識させるような声かけがあるとよい。
まとめ	☆ワークシートに、学習内容がどのような場面で生かせるかや、意見交流の感想などを書き込む。	★学習したことがどのような場面で生かせるかを考えさせる。 ★まとめ、次時の予告

月 日 年

名前 ()

★「感情を読み取ろう」で気づいたこと・感じたこと

★「怒りの温度計」で気づいたこと・感じたこと（交流して感じたこと）

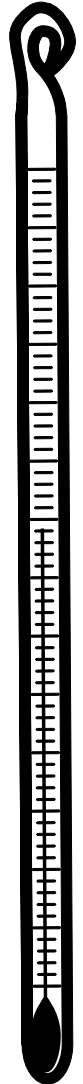
今後、怒りを感じそうな場面	どう対処するか（心の準備）	結 果

「怒りの温度計」

年 ()

自分は、どんなときに「怒り」を感じるだろうか。それぞれの場合に感じる怒りについて、その怒りを温度に表してみよう。

怒りの温度	「怒り」が発生する内容
100℃ もうガマンできない。限界点！キレる状態になる。	
80℃ 強い怒りを感じるが、何とかガマンできる。時間があれば…。	
60℃ 40℃よりも、少し強く怒りを感じる！ 「腹が立つ～！！」	
40℃ いらいらするなど、やや怒りを感じる。でもまだ割と冷静。	



「怒り」が発生した場合の対処方法

ピア・サポートプログラム トレーニング指導案「上手な断り方」

☆本時の活動

	活動内容 ☆生徒の活動 ★教師のはたらきかけ	活動のねらい・留意点 ○ねらい ●留意点
導入	<p>★前時を振り返り、本時の活動の説明をする ☆本時は自己防衛のトレーニングに取り組むことを確認する</p>	<p>●全体への指示、発問</p>
ウォーミングアップ	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「上手な断り方をしてみよう」</p> <p>「私の断り方」 ★ワークシートを配布、記入の指示 ☆3つのケースでの自分の断り方について、ワークシートに記入する</p> <p>★それぞれのパターンを黒板に掲示 ワークシートをもとに、ロールプレイを行うよう指示 ☆生徒同士（場合によっては教師とも）でロールプレイを行う（3～4人のグループ活動）</p> <p>★それぞれのパターン（当てはまらないものも含めて）について、感想を交流する ☆それぞれのパターンについて、分類して説明をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いばり屋タイプ」 ・「おどおどタイプ」 ・「気づかい、さわやかタイプ」 	<p>○自分の断り方や対人関係における特徴をつかませる（観察）</p> <p>●すみやかにグループ活動ができるように声かけをさせる</p> <p>●うまくイメージできず、ロールプレイが行えない生徒への支援を行う</p> <p>※S君の断り方について紹介</p>
主活動	<p>「上手な断り方をしてみよう」 ☆相手を傷つけずに上手に断るための3つのステップについて説明をする（黒板を用いて掲示する）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ごめん」とともに断ることを伝える ②断る理由を伝える ③解決案を提案する <p>★学んだ3つのステップをもとに、それぞれが考えた断り方で再びロールプレイを行う ☆机間巡視 →それぞれ工夫、挑戦意欲などよいところをほめる ★どのような感想を抱いたか交流する（シェアリング）</p>	<p>○相手も自分も大切にした上手な断り方を体験する（観察）</p> <p>●「難しかった」「うまくできなかった」などという感想でもよい</p> <p>●うまくいかない生徒へは、より具体的なアドバイスを行う</p> <p>○感想を交流することで、本日の活動への振り返りと気づきを深められるようにする（ワーク）</p>
まとめ	<p>☆本日の学習について振り返りをさせる ★それぞれ個人でワークシートへの記入を行う ※時間によっては「麻薬・犯罪に巻き込まれないための断り方」も伝える</p>	<p>○上手な断り方について理解し、今後の実践において生かそうとする姿勢を育てる（ワーク）</p>

上手な断り方 ワーク① 年 ()

〈ケース1〉

国語のテストの前日、友達に「国語のノートを貸してもらえない？」といわれました。国語のノートはテスト勉強に必要なものです。

〈ケース2〉

友達から「今度おこづかいが入ったら絶対に返すから、お金を貸してほしい。」といわれました。

〈ケース3〉

友達と遊びに来ましたが、あなたは用事があるのでもう帰らなければなりません。しかし、仲の良いその友達は「あと少しだから買い物が終わるまで付き合っ。」と強い口調で言いました。

選んだケース番号 < >

「私の断り方」

上手な断り方 ワーク② 年 ()

〈ケース1〉

国語のテストの前日、友達に「国語のノートを貸してもらえない？」といわれました。国語のノートはテスト勉強に必要なものです。

〈ケース2〉

友達から「今度おこづかいが入ったら絶対に返すから、お金を貸してほしい。」といわれました。

〈ケース3〉

友達と遊びに来ましたが、あなたは用事があるのでもう帰らなければなりません。しかし、仲の良いその友達は「あと少しだから買い物が終わるまで付き合っ。」と強い口調で言いました。

選んだケース番号 〈 〉

☆ステップ1 「ごめんね」(感謝の気持ちとともに)

「

」

☆ステップ2 断らなければならない理由

「

」

☆ステップ3 相手の困って言う立場を考えて、違うプランの提案

「

」

年 ()

★ウォーミングアップ（私の断り方）でわかったこと・感じたこと

★3つのステップを意識して、上手に断ることができましたか？

★今回の活動で気づいたことやわかったこと

ピア・サポート指導案（非言語コミュニケーション）

◆本時の展開

	生徒の活動	教師の動き（T1）	教師の動き（T2）
ウォーミングアップ	●牛・馬ゲーム	●ペアをつくるように指示 ●牛・馬ゲームの説明	●速やかにペアになるよう指示。 場合によっては参加
演習（25分）	●本時の課題を理解 ●感情を表す言葉を発表 ●ワークシートに記入 ●発表する ●班ごとの活動 ●発表者以外は感情を推測 ●感想を発表	●本時の課題を説明 「コミュニケーションをとるためには言葉だけでなく、その言い方も重要になります。言い方によって気持ちを伝えることができるということを学んでいきましょう。」 ●感情を表す言葉を列挙させる ◇嬉しい ◇悲しい ◇寂しい ◇楽しい ◇面倒くさい ◇怒り など ※黒板に板書 ●一文表現を説明（ワークシートを配付） 「(黒板に『もうすぐ体育大会だ』と書いて) 今からこの文章を読むので、どんな感情が込められているかを考えて、ワークシートに記入してください。また、話し手がどうしてそういう感情になっているのか、言葉の裏側に隠れた理由を考えてみてください。」 ※教師が読み手となって活動する ※言葉の裏側については難しかったら例を出して説明する ●発表させる（数名） ●違う感情で同じ活動を繰り返す ※『嬉しい』『悲しい』など ※同じ言葉でも表現によって受け取り方が異なることを理解 ※感情を理解して、どのような言葉をかけてあげることができるかを考えさせる ●班ごとに一文表現を行う（ワークシート配付） 「今度は班ごとでやってみます。誰か1人が、例文のどれかを感情を込めて読みます。他の人はさっきと同様に感情の種類と、言葉の裏側を記入してください。また、どのような言葉をかけてあげるかも記入してみてください。例文を読んだ人の右隣の人が記入したことを発表して、次の読み手になってください。」 「それでは始め。」…「終了。」 ●1、2名を抽出して全体の前で実演 ●感想発表（数名に当てる）	●趣旨を理解しているか確認・指導 ●生徒が趣旨を理解しているか確認・指導 ●机間支援 ●生徒が趣旨を理解しているか確認・指導 ●生徒が趣旨を理解しているか確認・指導 ●うまく回っていない班に机間支援 ●机間支援
シエアリング	●感想用紙への記入 ●発表	●感想用紙への記入指示・机間指導 ●数名に感想を発表させる ●感想用紙回収	●書けない生徒への支援

◆指導のポイント

- ・非言語（表情、声、身振り等）もコミュニケーションの重要な要素であることを実感できるよう
- ・普段から無意識に行っていることだが、意識することでよりコミュニケーションが図れることを実感できるよう
- ・相手の気持ちを理解しようとして、関わりを持つことは大切であることがわかるとなお良い

「一文表現・SNSの特徴」

年（ ）

★牛・馬ゲームについて

★今回の活動で気づいたことやわかったこと

★今回のトレーニング（一文表現・SNSの特徴）でわかったことを、どのような状況で生かせるか考えてみよう。

どんな状況で？	どのように？

トレーニング指導案

本時の活動

	活動内容 ☆生徒の活動 ★教師のはたらきかけ	活動のねらい・留意点 ○ねらい ●留意点
導 入	<p>★これまでのトレーニングの確認と、本時の活動の説明を行う</p> <p>☆これまでのトレーニングの内容を振り返り、対話する相手を意識してトレーニングに取り組むことを確認する</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">「上手に指示を出してみよう」</p>	<p>●全体への指示・発問時、理解に時間を要する生徒が理解しているかどうかを配る</p>
ウォーミングアップ	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「一方通行のコミュニケーション」 背中を向けたリーダーの説明を聞いて、全員が地図を書く。質問は不可。</p> <p>★リーダーの決定、地図の配布（リーダーのみ） 聴き取りシートの配布、やり方の説明</p> <p>☆地図を書き入れる（個人での活動）</p> <p>★正解の提示、感想・意見交流を行わせる 意見を板書する</p> <p>☆自分が聞き取ったことと正解の比較を行う 気づいたことの交流（なぜ難しかったか）</p> <p>①顔を見ることができないから、話し手も聞き手もお互いに理解したかどうかを確認できない</p> <p>②質問できないから、わからなくてもそのままになってしまう</p>	<p>○コミュニケーションとらないで説明することが難しいことを実感する【観察】</p> <p>●すみやかに活動ができるように声かけをする</p> <p>●うまくいかない生徒への声かけ ※難しいことが実感できればよいので、手助けはしない</p> <p>●意見を板書して、主活動にポイントを行かせるように配慮する</p> <p>●「難しかった」「うまくできなかった」などという感想のほうが、主活動につながりやすい</p> <p>●コミュニケーションをとることが大切であることに気づかせる</p>
主活動	<p>「双方向のコミュニケーション」</p> <p>☆3人1組のグループをつくらせる 見本カード・聴き取りシートの配布 やり方の指示</p> <p>★3人1組のグループを構成 それぞれ活動を行う</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">リーダーが見本カードの図を説明する お互いの顔を見ながら見本カードと同じ図を書いていく。顔を見合いながら行ってよい。また、質問も可。ただし、リーダーは見本カードそのものを見せてはいけない。</p> <p>☆それぞれの正解を掲示させる</p> <p>★正解の確認 一方通行との比較についてどのような感想を抱いたか交流する（シェアリング）</p>	<p>○一方通行の説明に対して、コミュニケーションをとった説明がいかにわかりやすいかを実感する【観察】</p> <p>●コミュニケーションが上手とれているグループがあれば、全体の前で行わせる</p> <p>●コミュニケーションが上手とれていないグループには、目を見る、質問をするなどの具体的なアドバイスを行う</p> <p>●感想を交流することで、本日の活動への振り返りと気づきを深められるようにする</p>
まとめ	<p>☆本日の学習について振り返りをさせる</p> <p>★それぞれ個人でワークシートへの記入を行う</p> <p>☆次時（プランニング）の予告</p>	<p>○話し手と聞き手のコミュニケーションが上手な指示の出し方につながる【ワーク】</p>

月 日

年 名前 ()

★「一方通行のコミュニケーション」で気づいたこと・感じたこと

★「双方向（両方から）のコミュニケーション」で気づいたこと・感じたこと

「双方向（両方から）のコミュニケーション」が使える場面	どうだったか

トレーニング指導案

◆本時の展開

	生徒の活動	教師の動き (T 1)	教師の動き (T 2)
ウォーミングアップ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ●説明を聞く ●グループごとに着席 	<ul style="list-style-type: none"> ●バースデーチェーンの説明 「全員起立して、町内が小さい順に並んでください。」 「次は、誕生日の月と日にちを足した数字が小さい順になるように並んでください。ただし言葉を発しないこと。」 ※制限時間の設定 「(並んだら) 5班に分けるので、こちらから1～5までの数字を1人ずつ順番に言ってください。自分が言った数字が班の番号です。」 「では各グループに分かれて座ってください。」 ※5～6人のグループになるように ※まだ机は向かい合わせなくて良い 	<ul style="list-style-type: none"> ●説明が全員に周知されているか確認 ●各グループが理解しているかを確認
演習 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の課題を理解 ●砂漠の救助リストを理解する ●ワークシートへ記入 ●話し合いの隊形を作る ●班ごとに交流 ●発表する ●感想を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の課題を説明 「自分の考えを伝えるということは、コミュニケーションをとる上で大切な要素です。今日は自分の考えを主張して、なおかつグループで意見をまとめるということをやってみましょう。」 ●砂漠の救助リストを説明する(ワークシート配布) ●教師用資料を読む 「どの3人を残すか、まずは個人で考えてみてください。どのような基準で判断するかは自由です。選んだ理由も必ず書いてください」 ※制限時間の設定 (5分程度) ※他人と相談しないように指示 ●話し合いやすい隊形を作らせる ●話し合いの指示 「1人ひとりの考えを発表し合ってから、グループ全員が納得できるように、どの3人を残すかを決定してください。理由も説明できるようにしてください。」 「それでは始めてください。」 ※司会を立てる ※制限時間を設定 (10分程度) ※多数決は禁止 ●班ごとに発表させる ※発表者を決める (司会者とは別人がよい) ※理由も発表させる ●話し合いの感想を発表 (数名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●趣旨を理解しているか確認・指導 ●各自趣旨を理解しているか確認・指導 ●書けない生徒 (特に理由) への支援 ●交流が円滑に行われているか机間支援

シ エ ア リ ン グ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ●感想用紙への記入 ●発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●感想用紙への記入指示・机間指導 ●数名に感想を発表させる ●感想用紙回収 	<ul style="list-style-type: none"> ●書けない生徒への支援
---	--	---	---

◆指導のポイント

- ・人の価値観はさまざまであり、どれが正しいというわけではないことを実感できるように
- ・自分の意見を述べ、相手の意見を聞き入れることに面白みを感じられるとよい

教師用資料 砂漠の救助

砂漠の真ん中で飛行機が不時着しました。
 迎いの車がきて町まで行くのですが、町までは10時間車かかり一度に7人しか乗ることができません。
 残る3人に食料はなく、夜になると0度以下になります。
 またいつ助けが来るかも分からず、生命の危機にさらされることが十分に考えられます。
 あなたはどの3人を残しますか？

- ①難民キャンプで働く看護師(女性28歳)
- ②世界的大会社の社長(男性53歳)
- ③子育てを終えた家庭円満な主婦(女性48歳)
- ④発掘調査をおこなう歴史学者(男性49歳)
- ⑤プロ野球のトレーナー(男性32歳)
- ⑥海外救援ボランティア団体のリーダー(男性38歳)
- ⑦世界平和運動の活動をしている神父(男性50歳)
- ⑧休暇を利用して旅行中のOL(女性24歳)
- ⑨女性アイドル(女性18歳)
- ⑩この小型飛行機のパイロット(男性38歳)

砂漠の救助 ワークシート

名前 _____

- ① 難民キャンプで働く看護師 (女性 28歳)
- ② 世界的大会社の社長 (男性 53歳)
- ③ 子育てを終えた家庭円満な主婦 (女性 48歳)
- ④ 発掘調査をおこなう歴史学者 (男性 49歳)
- ⑤ プロ野球のトレーナー (男性 32歳)
- ⑥ 海外救援ボランティア団体のリーダー (男性 38歳)
- ⑦ 世界平和運動の活動をしている神父 (男性 50歳)
- ⑧ 休暇を利用して旅行中のOL (女性 24歳)
- ⑨ 女性アイドル (女性 18歳)
- ⑩ この小型飛行機のパイロット (男性 38歳)

◆残す人3名 (個人の判断)

番号	理由

◆班員の考え

班員	選んだ3名			班員	選んだ3名		

◆残す人3名 (班での決定)

番号	理由

月 日

年 名前 ()

★「バースディ・チェーン」で気づいたこと・感じたこと

★「砂漠の救助」で気づいたこと・感じたこと

「他者理解（相手の立場や価値観を理解）」が使えるような場面	どうだったか